(2) 岐阜県立加納高等学校における実践

〈授業実践〉

①授業実践に向けての構え

- ・昨年度来心掛けてきた音読重視の授業スタイルを継続するため、1、2年生の全ての英語の授業で音読や音声を取り入れた授業を行うよう心掛けた。
- ・1年目の課題であった、学年段階を踏まえたより高度で正確なコミュニケーションが英語で図れるようにするための指導法を研究した。

②第1回授業交流研究会

【日時】 公開授業 平成16年6月22日 授業研究会 平成16年6月28日

【公開授業】

- ・単元名 Lesson 3 “Humor: A Spice of Life”
- ・授業学校・学級 岐阜県立加納高等学校 1年5組（普通科）
- ・主な授業内容
  - ・授業の始めに暗唱例文テストを行い、継続的に語彙の定着を図る。
  - ・レッスン全体をスキミングさせてから、パートごとにリスニング→メモ→リプロデュースの活動へと段階的につなげる。
  - ・単語リストやリーディングプラクティスシートの活用で、日本語から英語、英語から日本語への変換がスムーズにできるよう段階を踏んで指導する。

【授業研究会】

- ・話題となったこと
  - ・授業の中でスキミングをして1課全体の流れを把握した後に、生徒が各自予習をしてるので、スキミングが効果的である。
  - ・単語リストは、単語の定着以外に、ペア・ワークでの使用やリスニング活動にも応用でき、活用度が高い。
  - ・ペア・ワークを取り入れて、活動スタイルにバラエティーがあった。ペア・ワーク活動における内容の正確さについては今後の課題である。

③第2回授業交流研究会

【日時】 平成16年10月4日

【公開授業】

- ・単元名 Lesson 4 “Running under the Flag”
- ・授業学校・学級 岐阜県立加納高等学校 2年1組（普通科・文系）
- ・主な授業内容
  - ・授業の始めに単語テストを行い、継続的に語彙力の定着を図る。
  - ・本文を聞いてQ&A（一部選択式）に答え、次の授業で語彙の定着とサマライズ、キーワードによるサマライズのリプロデュース活動へと段階的につなげる。

【授業研究会】

- ・話題となったこと
  - ・トレーニング形式の授業であったが、スピードでプッシュするだけでなく、生徒に考えさせる時間帯も授業の中で必要である。

- ・リーディングプラクティスシートをはじめとしたプリント、リズム読みなど、1年次からの音声に重きを置いた授業展開が引き続きなされている。
- ・10年前と指導法は確かに変わってきているが、従来の指導法を全て否定することはできない。英文解釈の方法をうまく授業過程に取り入れていく必要がある。
- ・語学の修得には時間が必要。いかに家庭学習をさせるかが絶対必要な条件である。
- ・65分授業は長いので、途中コミュニケーション活動をうまく取り入れていくとよい。
- ・指導過程にスモールステップが用意されていたが、本時の目標を明確にして、山場をつくる必要がある。

〈グローバルスタンダードによる英語力診断〉

TOEFL-ITPの受験

【日時】 11月10日(水) 13:05~15:30

【受験者】 2年生文系2クラス(80名)

- ・去年に引き続き受験した生徒の中には、1年生の秋と比べて伸ばした英語力を実感できた生徒がいた。
- ・グローバルな試験なので、外国語学部や英文科を目指す生徒には励みになった。
- ・リスニングは1回しか読まれず、かつ長時間にわたって続くので、生徒は各種模試のリスニングテストとのレベルの違いを実感していた。
- ・リスニングに関しては、普段の授業の中でリスニング力を伸ばするための活動を取り入れると共に、実践的な問題に挑戦する機会の必要性を感じ、2年生11月より英語Ⅱの授業で週1回リスニング教材を扱うこととした。

〈学習環境の充実〉

①外部講師の活用 ~ Let's Sing Together! 留学生との歌を通じた交流会~

昨年度実施した様々なイマージョンプログラムのうち、生徒に好評であった歌を通じた交流会を今年度も実施した。生徒が留学生に日本の歌を英語で教え、留学生から英語の歌を習う活動である。留学生の中には昨年度に引き続き参加してくれた方もあり、生徒、留学生、教員ともに好評であった。

第1回 11月17日(水) 1年5組 2年6組 (普通科)

【テーマ曲】 A Hard Day's Night 島歌 大きな古時計

【参加者】 名古屋大学留学生4名 本校ALT

第2回 12月8日(水) 1年1組 1年7組 (普通科)

【テーマ曲】 A Hard Day's Night 世界に一つだけの花 アルプス一万尺

【参加者】 名古屋大学留学生5名 本校ALT

【生徒の感想】

- ・留学生と交流する機会はなかなかないので、いい経験だった。
- ・音楽の授業で習った三線の演奏による島歌を、留学生の人が喜んでくれた。
- ・自分の気持ちをうまく英語で表せないことが分かり、まだまだ力がないと思った。もっと勉強しなければ。
- ・マレーシアの人と交流ができ、とても新鮮だった。他国の曲も少しだけ歌えるようになってよかった。

- ・実際外国の方を目の前にすると、普段分かるはずの簡単な英語でも緊張して話せなくなってしまったので、会話力をもっと養いたい。
- ・英語が聞き取れなかったりして残念だった。歌う時間があまりなかったので、もっとコミュニケーションをとれる時間が欲しいなと思った。

②英字新聞

昨年度 Daily Yomiuri と TIME を購読したが、生徒にはやや難しかったので、今年度は Student Times を購読し、図書館に配置した。興味のある生徒が時々閲覧しているが、活用頻度としては低かったので、1年生を中心に宣伝できると良かった。

③Relay Essay

2年生で6人ごとに1冊ノートを回覧し、与えられたテーマに応じて、それぞれ割り当てられた立場で、意見を英語で書くという活動を行った。テーマやグループによっては大いに盛り上がった。

④カリグラフィー（英語の書道）ライティングペン

2年生でカードライティングの授業で活用。生徒は作品作りを通じてコンピュータとは違う感動を味わえた。

〈成果〉

今年度は、音声面を重視したコミュニケーション能力の向上をテーマに研究を重ねてきた。中学校との授業交流会から言語活動の工夫の必要性を感じ、1年生と2年生を対象に、昨年度ご指導いただいた日本福祉大学の中西哲彦先生によるトレーニング法を、本校の生徒の実態に合わせて改善を重ねてきた。

65分の授業時間の中に、本文読解に必要な単語を覚えあう活動や、Q & Aにペア・ワークを取り入れて授業形態に変化を持たせた。生徒対生徒という形態を取ることで、単語を早く正確に覚えられたり、中身の濃い英文を書ける友達に刺激を受けたりするよさを随所で実感できた。

また、特に昨年度の課題であった、学年の発達段階に合わせた指導法の研究については、昨年来使ってきたリーディングプラクティスシートの学年段階や教材内容に応じた効果的な活用法を、日々の実践の中でいろいろ模索してきた。

今年度2年生の英語の授業では、昨年のようなT-Tの授業はなかった。コミュニケーション能力を付けさせるための授業改革として、英語Ⅱで音声面を重視した授業スタイルとともに、ライティングでは、自分の考えを英語で書いて伝える活動を取り入れた。生徒同士で作品を交換して読みあったり、ALTに添削してもらったり、また定期テストに自由英作文を出題した。

〈課題〉

授業の様々な場面でペア・ワークを取り入れるように心がけてきたが、生徒同士の活動になればどうしても正確さが欠けがちである。全体での確認や、教員による添削等を重ねるなどの配慮を今後とも続けていく必要がある。

英語でメッセージを伝える機会にと思い、年度当初リレー・エッセイを企画したが、生徒がメッセージを書く頻度が少なかった。

センター試験でのリスニングテストを意識して重視してきた音声面での指導は、週に3回の授業だけでは十分とはいえず、家庭でもいかに音源を用いた学習をさせるかが課題だと実感した。今後の教材の選定にあたっては、生徒用CDのあるものを選び、音声CDを活用した予習・復習の在り方について更に研究を重ねたい。